

日本で19件目の世界遺産



▲富士山反射炉(静岡県伊豆の国市)

世界遺産とは

●**世界遺産** 世界遺産とは、1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)にもとづいて登録されている遺跡や文化的価値の高い建造物、貴重な自然環境などをいいます。これらを保護し、未来の世界に伝えていくことが世界遺産条約が採択された目的です。2015年7月現在の世界遺産登録件数は1031件で、うちわけは文化遺産が802件、自然遺産が197件、両方の要素をかね備えた複合遺産が32件となっています。

●**登録の流れ** 世界遺産に登録したい候補のある国は、候補地の暫定リストを提出します。その上で原則として1年に1件ずつ候補地についての推薦書をユネスコの世界遺産委員会に提出します。ユネスコでは専門家による調査を行い、毎年開かれる世界遺産委員会で登録するかどうかを決定します。登録件数が多くなりすぎたため、新たな登録は、以前よりも難しくなっています。

●**日本の世界遺産** 日本では1993年に白神山地と屋久島が世界自然遺産に、法隆寺地域の仏教建造物と姫路城が世界文化遺産に、初めて登録されました。その後、登録地域がふえ、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が登録されて19か所になりました。政府は、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の推薦書をユネスコに提出し、2016年の登録をめざしています。これは、大浦天主堂などの教会のほか、島原・天草一揆の中心地となった原城跡などで構成されています。

明治日本の産業革命遺産

2015年6月28日からドイツのボンで第39回ユネスコ世界遺産委員会が開かれ、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産として登録されました。3年連続で日本が推薦した物件が登録されました。また、2015年から日本遺産の制度が始まりました。



明治日本の産業革命遺産は、どこにあるの
だろう？



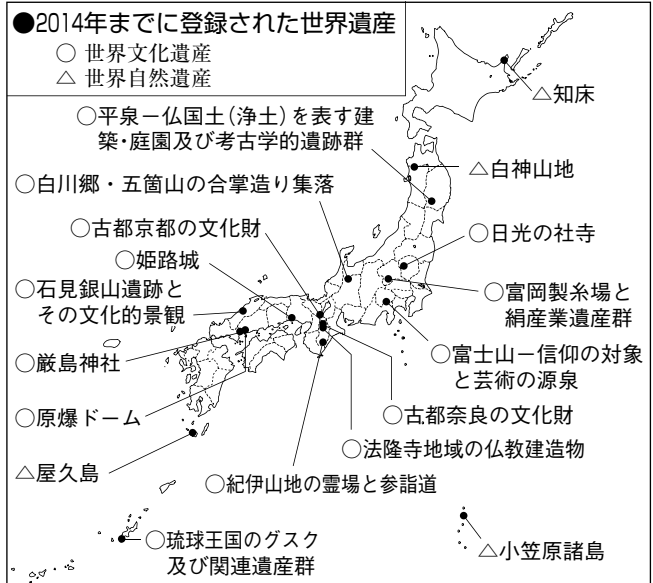
キーワード

ユネスコ (UNESCO)

国際連合教育科学文化機関の略称で、国連の専門機関の1つである。教育、科学、文化を通じて、世界の平和と安全をはかることを目的としている。

島原・天草一揆

1637年に、島原半島南部と天草諸島の農民が、禁教や重税に反対しておこした一揆。



明治日本の産業革命遺産

明治日本の産業革命遺産は、1850年から1910年にかけて、日本における製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった重工業の産業化に中心的役割をになった遺産群で、8県にまたがる23の資産で構成されています。

●**松下村塾** 松下村塾は長州藩士（萩藩士）であった吉田松陰の私塾です。伊藤博文など、松陰の教えを受けた塾生たちが日本の近代化に大きな役割を果たしました。下関戦争で西洋諸国の実力を知った長州藩は、西洋の技術を学んで製鉄や造船を積極的に進めました。

●**集成館** 集成館は、薩摩藩主であった島津斉彬が進めた製鉄や造船、紡績、ガラスなどの産業化事業です。集成館は薩英戦争や西南戦争で破壊され、その跡地に博物館として尚古集成館が建てられています。

●**葦山反射炉** 1853年にペリーが浦賀に来航し、海防のために大砲などをつくる目的で、江戸幕府が建設したのが葦山**反射炉**です。

●**橋野鉄鉱山・高炉跡** 古くから日本で行われていた製鉄は、砂鉄を原料とするたたら製鉄でした。幕末に、日本で初めて近代的な方法で製鉄に成功したのが盛岡藩の橋野高炉でした。明治時代には官営釜石製鉄所がつくれ、釜石は「鉄のまち」として発達しました。

●**三菱長崎造船所** 幕末に、江戸幕府は海軍を創設し、艦船の修理工場として長崎に長崎鋳鉄所を建設しました。その後、明治政府に引きつがれ、三菱に払い下げられてから民営の造船所となりました。太平洋戦争で用いられた戦艦「武蔵」もこの造船所で建造されました。

●**端島炭坑** 端島は、もと小さな島でしたが、幕末から石炭の採掘が始まり、周囲を埋め立てて拡大されました。従業員や家族が住む高層アパートが建設され、1960年ごろには5000人以上が密集して住んでいました。外観が要塞のようであることから、**軍艦島**と呼ばれます。

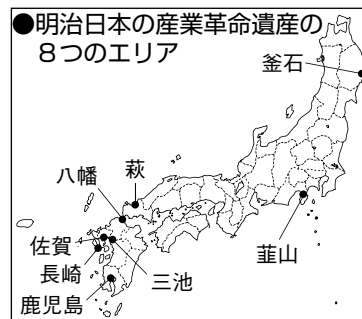
●**官営八幡製鉄所** 日本初の鉄鋼一貫製鉄所として1901年に操業を開始しました。釜石製鉄所では**銑鉄**の生産までしか行われず、八幡製鉄所は鋼まで生産する近代製鉄所として北九州工業地帯の中心となり、また、日本の重工業の発達の基礎を築きました。

日本遺産

日本では、文化財保護法にもとづいて、重要文化財などを認定し、保護と活用をはかってきました。文化財の保護より、積極的な活用を目的として2015年から日本遺産の制度が始まりました。いくつかの有形・無形の文化財をまとめ、ストーリーとして国内外に発信し、地域の活性化をめざすものです。2015年には18件が選ばれました。例えば、茨城県水戸市の旧弘道館や岡山県備前市の旧閑谷学校がまとめられ、「近世日本の教育遺産群」というストーリーで認定されています。

「明治日本の産業革命遺産」の構成資産

エリア	構成資産
萩	萩反射炉
	恵美須ヶ鼻造船所跡
	大板山たたら製鉄遺跡
	萩城下町
鹿児島	松下村塾
	旧集成館
	寺山炭窯跡
葦山	関吉の疎水溝
	葦山反射炉
釜石	橋野鉄鉱山・高炉跡
佐賀	三重津海軍所跡
	小管修船場跡
長崎	三菱長崎造船所 第三船渠
	三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン
	三菱長崎造船所 旧木型場
	三菱長崎造船所 占勝閣
	高島炭坑
	端島炭坑
	旧グラバー住宅
三池	三池炭鉱と三池港
	三角西（旧）港
八幡	官営八幡製鉄所
	遠賀川水源ポンプ室



キーワード

反射炉

金属を溶かしたり製錬したりする施設。天井や壁で炎と熱を反射させて集中させることによって高温をつくり出す。

銑鉄・鋼

鉄鉱石を原料に高炉で取り出した鉄が銑鉄、さらに精錬によって炭素などを除去し、強度などを高めたものが鋼。